

研修主題

# 確かな学力をささえる 学びの基盤づくり

～学習規律、家庭学習、教師の力量、ICT活用の充実を通して～

日時 8月4日(木)・5日(金) 9:15～16:30

会場 東京都 港区立三田中学校

参加費 2日参加 10,000円(会員:8,000円)  
1日参加 7,000円(会員:6,000円)



吉崎静夫先生 村川雅弘先生 水越敏行先生

小・中学校コース

8月4日(木)

基調講演

## 確かな学力をささえる学びの基盤づくり

日本女子大学教授 吉崎静夫

講演

## 学力向上に資する

### 校内研修の企画・運営

大阪教育大学教授 木原俊行

## 事例発表と教育機器体験

以下から選択 (詳しい内容は右ページ参照)

- A: 段取り力強化プログラム
- B: 実践・学校危機管理
- C: 初めての教員でも行える  
保護者向け携帯電話セミナーの実施(小)
- D: 教室の気になる児童への理解と対応(小)
- E: 学級担任が指導する、作文の書かせ方(中)
- F: 電子黒板を活かす授業づくり

特別講演

## 学力日本一の 秋田県と福井県から学ぶこと

対談: 大阪大学名誉教授 水越敏行  
日本女子大学教授 吉崎静夫

8月5日(金)

事例発表と解説

## 秋田県と福井県 学力日本一の秘密を探る

- 小…秋田実践報告 総括: 澤本和子 (日本女子大学教授)
- 中…福井実践報告 総括: 木原俊行 (大阪教育大学教授)

講演

## 教育の情報化に関する 政策の動向および現実的課題

玉川大学教授 堀田龍也

## 事例発表と教育機器体験

以下から選択 (詳しい内容は右ページ参照)

- G: 思考スキルの育成をめざす授業づくり
- H: 児童の情報活用能力を育成する授業づくりの実践
- I: 新学習指導要領における  
情報モラル教育に向けて(中)
- J: 学級担任が指導する、作文の書かせ方(中)
- K: デジタル教科書体験
- L: 若手を伸ばす環境づくりのスキル

講演

## 活用力・探究力育成の意義と そのためのカリキュラム開発・授業づくり

文部科学省教科調査官 田村 学  
鳴門教育大学教職大学院教授 村川雅弘



黒上晴夫先生 木原俊行先生 堀田龍也先生

\*各講師の肩書きは、2011年4月現在のものです。\*プログラムは変更になる場合があります。

特別コース

8月4日(木) 幼稚園教員向け実践講座  
(詳細はフォーラム事務局にお問い合わせください)

8月5日(金) カリキュラムマネジメント講座  
(詳しい内容は裏面参照)

## ワークショップの内容

8月4日(木)

**小学校 中学校** A: 段取り力強化プログラム  
～行事運営からクラスづくりまで必要な汎用スキル～  
吉山勇樹 (株)ハイブリッドコンサルティング代表取締役CEO

教師の日常は非常に多忙です。しかし、「段取り八分」という考え方は、学級づくりや体育祭、遠足、学習発表会、入学・卒業式など様々な行事においても当てはまります。今回のワークショップでは、ある行事を企画・実施する想定で、グループワーク形式で段取りの技術を体感し、2学期からの行事にすぐに役立つノウハウを学びます。

**小学校 中学校** B: 実践・学校危機管理  
～信頼される教師・学校であるために～

田村知子 中村学園大学講師

学校で危機が起こった場合には何をしなければならないのか、そもそも危機的状況を発生させないために何をしておくべきかを考えて危機管理マニュアルをグループ毎に作成します。その上で、その危機的状況について保護者が苦情を訴えに来校したという想定で、保護者役と教師役に分かれてロールプレイングを実施します。その過程で、保護者の気持ちへの理解や、教師が陥りやすい思考様式への気づきが促されます。

**小学校** C: 初めての教員でも行える  
保護者向け携帯電話セミナーの実施

榎本竜二 東京女子体育大学准教授

小学生に対しても猛スピードで広がる携帯電話。十分な話し合いもないまま保護者は子どもに買い与えてしまいます。安全面・健康面などあらゆる面で、子ども達は危険にさらされています。新学習指導要領にも情報モラル教育が明記された今、教員の役割は重大です。そこで、改訂されたWeb教材「ネット社会の歩き方」を用いて、情報モラル教育初心者の教員でも行える保護者向けセミナーの実施・運営について学んでいきます。

**小学校** D: 教室の気になる児童への理解と対応

上原文 社会福祉研究所副所長

通常学級の中の気になる児童への対応が学級運営においても非常に重要になってきています。この講習では、そうした子どもたちをより良く理解し適切に対応していくために知っておくべきこと、意識すべきことなどについて学んでいきます。(この講習は、講義形式中心となります)

**中学校** E: 学級担任が指導する、作文の書かせ方

～行事作文を中心に～

池田修 京都橋大学准教授

「はい、では昨日の運動会のことを作文に書いてください」。行事後に書かせる作文は、担任が指導することがほとんどです。国語が専門の教師であれば、指導はできるでしょう。しかし、国語が専門でない担任も指導はしなければなりません。これはなかなか難しい。さらに、新学習指導要領では国語科以外での「言語活動の充実」も求めています。本講座では、主に国語を専門としない教員を対象として、行事作文の書かせ方を学びます。

**小学校 中学校** F: 電子黒板を活かす授業づくり

中橋雄 武蔵大学教授

学校に導入された電子黒板、有効活用できていますか?この講座では、①実践事例の紹介、②電子黒板機能の体験、③授業づくりワークショップを通じて、電子黒板を有効活用できる授業場面を考えていきます。単に機器が導入されただけで授業がよくなるわけではありません。どんな場面、どのように活用すると有効なのか、グループの知を結集させて考えていきましょう。

(参加したい講座を第2希望まで選択してください)  
\*各講師の肩書きは2011年4月現在のものです。

8月5日(金)

**小学校 中学校** G: 思考スキルの育成をめざす授業づくり

黒上晴夫 関西大学教授

新学習指導要領で重視されている習得した知識・技能を活用する学習活動や課題を解決する探究活動などにおいては、評価基準が曖昧になりやすく、結果として指導・助言にも不確かさが生じてしまいがちです。そうした内容における子どもたちの学習到達状況をきちんと評価するための評価基準をグループで話し合いながら作り上げていきます。

**小学校** H: 児童の情報活用能力を育成する  
授業づくりの実践

堀田龍也 玉川大学教授

2006年に開発・刊行され、たくさんの方の学校で活用されてきた小学生向けの情報教育のテキストは、2010年に新学習指導要領に対応してリニューアルされました。各教科の学習内容と情報活用能力の育成を同時に行う単元および学習活動が設定されています。このテキストを活用した情報活用能力の育成のための授業づくりについて考えます。

**中学校** I: 新学習指導要領における  
情報モラル教育に向けて

榎本竜二 東京女子体育大学准教授

ネット犯罪の対象は徐々に低年齢化し、被害者の中心は中学生と言ってもよいでしょう。携帯電話やゲーム機からのネット利用は、保護者の見守りや学校の指導が入りにくい状態を生み出しています。学習指導要領にも各教科領域において指導することが求められました。そこで、ネット利用問題の最新情報を織り交ぜながら、学校で生徒や保護者対象に行う「ネット社会の歩き方」セミナーの実施・運営について学んでいきます。

**中学校** J: 学級担任が指導する、作文の書かせ方

～行事作文を中心に～

池田修 京都橋大学准教授

「はい、では昨日の運動会のことを作文に書いてください」。行事後に書かせる作文は、担任が指導することがほとんどです。国語が専門の教師であれば、指導はできるでしょう。しかし、国語が専門でない担任も指導はしなければなりません。これはなかなか難しい。さらに、新学習指導要領では国語科以外での「言語活動の充実」も求めています。本講座では、主に国語を専門としない教員を対象として、行事作文の書かせ方を学びます。

**小学校 中学校** K: デジタル教科書体験

中橋雄 武蔵大学教授

話題となっているデジタル教科書の実物に触れる研修です。実際の使用環境を想定し、電子黒板やタブレットPC上でのデジタル教科書の操作を体験します。そうした体験に、先進事例におけるデジタル教科書活用の効果や課題、各デジタル教科書の特徴とそのねらいなどについての解説を交えて、デジタル教科書をよりよく知っていただきます。

**小学校 中学校** L: 若手を伸ばす環境づくりのスキル

諸葛正弥 諸葛正弥教育総合クリニック代表

団塊の世代が退職し、世代交代の中で若手の育成は非常に重要になっています。しかし、若手とのコミュニケーションギャップなどを感じられている方も多いかと思います。それを解消するには、若手も主体的に研鑽をしようとする意欲を育てる環境を、学校全体で演出する必要があります。その環境づくりのコミュニケーション技術や関わり方のスキルなど、教員研修での事例を踏まえながら学習していきます。

